

第15回

ベルリン/ドイツ
Berlin Germany

ほんのひと時の安ど感

(ベルリン③／全3回)

リクルート=スタディサプリ講師 村山秀太郎

社会主義とは without サービス

1990年10月2日。アエロフロート機でモスクワ経由東ベルリン、シェーネフェルト空港へ。最後の東ドイツ入国のスタンプがパスポートに押された。その数時間後に東ドイツは消滅した。

その日、空港からのタクシーで驚愕^{きょうがく}の体験をする。トラバント社製のタクシーのコラムシフトのレバーが高速道路走行中にはずれてしまったのだ。運転手は慌て、私は焦りと爆笑と憤慨が併発、路肩に止め無線で代車を呼んで事なきを得た。トラバントは発注から納車まで10年とか20年かかったという。需要が生じてから生産が始まるのが計画経済なのだろう。

ベルリンテレビ塔のレストランでランチをとったが、相変わらず東ドイツのビールは飲めたものではない。以前、注文したワインの気の抜けた味に面食らい地面に吐き出したこともあ



ウンター・デン・リンデン大通り(東ベルリン)とベルリンテレビ塔(1989年)

る。料理の皿に先客の食べ残しが付着していたことさえある。資本主義とは競争、社会主義とは without サービス。サービスこそ競争の本質。その回転レストランでは、うまくないビールを数杯飲んでほろ酔い気分になっても、今自分が東西どちらのベルリンの空を眺めているかが分かる。空が汚ければ東ベルリンを向いている。実際に東ベルリンを歩く際、私はハンカチを鼻に当てることを欠かさなかった。それくらい街が臭かった。

統一式典は恐怖の花火の下

10月3日午前0時、旧帝国議会前広場。1933年2月にヒトラーが火を点け共産党の仕業にして非法に追い込んだ場所である。凍える寒気の中、定刻にハイドン作曲のドイツ国歌が流れ、なぜだかエルガーの『威風堂々』で締めくくられた。こうして西ドイツが東ドイツを吸収合併した。ヴァイツゼッカー大統領と“20世紀のビスマルク”コール首相の姿が見えた。CDU(キリスト教民主同盟)の旗が多く振られていたので、統一ドイツという国家より党のアピールの方が印象的なシーンだった。そして何よりも思い出すのは、そこかしこでヒューヒューという大音量とともに打ち上げられる花火の恐怖だ。まっすぐ打ち上げろよ！ 顔面を直撃させるなよ！と内なる叫び声とともに「早く終われ！」と思った式典は30分弱で終了しホッとした。